

てん菜種子の登熟に関する研究

第1報 てん菜の開花,結実状況並びに子実の収穫時期と発芽との関係

安部秀雄・山本保・村井修

暖地の直播採種におけるてん菜の開花,結実を調査し,適期収穫の基礎資料を得るために導入2号,合成2号を用いて試験を行った。

その結果,開花は5月上旬から始まり7月上旬に終る。開花最盛期は5月30日から6月4日の間にあるが個体によって若干異なる。開花総数は約10,000~18,000の間にあり,個体の平均結実比率は28.8%で6月16日から6月21日の間に開花したものが50%の結実比率を示すが,大部分が不稔顆で1顆当りの子実の含有は0.6粒以下である。従って5月11日から6月15日の間に開花したものが正常な稔顆の97.5%と占めており以降開花したものは無効花と推察された。2次生長による開花は6月29日以降におきたが,完全な不稔花であることが判明した。

開花は主稈の上位2/3位の所から始まり,続いて上位の分枝の下部から上部に向って開花する。引続いて下方の分枝が発育し,その分枝の下部より上部に向って開花する。開花の最もおそい部位は下位分枝の先端部および2次分枝の先端部であった。

1顆を構成する花は2~6花でありその開花順位は2~7日の開花日の違いで中央の花が最も早く,ついで下,上,側面の花が咲く。稔顆重の増加は最終の調査の7月11日まで増加するが,子実の発芽歩合が85%以上に達するのは導入2号では7月6日以降,合成2号では7月2日以降とやや早い。稔顆重および発芽歩合から見た収穫期と外部の形態的特徴から見た成熟期はほぼ合致することから,形態的特徴から収穫期を判定しても誤りはないと考えられた。

以上の結果6月16日以降に開花したものは無効顆であり,てん菜の正常な稔顆を多く得ようとする場合は早期に開花結実した稔顆を落さないことと,採種栽培におけるてん菜の収穫期は導入2号は7月6日合成2号は7月2日以降が適期であると推察された。